朝会で男女一緒に乾布摩擦をする中学の話、女子も男子の前でおっぱい丸出し

これはとある中学で昔あった話。

この中学では毎月、月初めの朝会で生徒たちが乾布摩擦をする習慣があった。男女一緒に校庭に出て、上半身裸になってだ。もちろん中学生、女の子はおっぱいも膨らみ始めている。だが教育の一環の名の下、そんなもの関係なく、男の子もいる前でおっぱ

い丸出しにして乾布摩擦をしなくてはならないのであった。

ある日の月初めの朝、生徒たちはいつも通り次々と席に着いた。佐々木葵は窓側の自分の席に座り、頬杖をついて外をぼんやり見ていた。隣の山本美保が鞄からノートを出しながら声をかけてきた。

「ねえ、葵。今日の朝会、アレ、あるよね……。ほんとに毎月憂鬱になるわ」

葵は小さくため息をついて答えた。

「うん……男子めっちゃ見てくるし。本当に最悪」

後ろの席では男子たちが少し興奮気味に話していた。鈴木健太が机に寄りかかりながら、前の女子の背中をチラチラ見ていた。

「今日は乾布摩擦の日か……楽しみだな。佐々木のおっぱい見るの毎月の楽しみなんだよな」

田中優太がニヤッと笑って相槌を打つ。

「美保のもいいよな。乳首がエロすぎてたまんねえ」

少し離れた席の森下隆司は、高橋玲奈の後ろ姿を眺めながら、すでにいろんな想像を膨らませていた。教室全体に男子たちの期待する空気が少しずつ広がり始めていた。

担任の先生が入ってきてホームルームが始まった。連絡事項を淡々と済ませた後、先生はいつものように言った。

「それでは今日は乾布摩擦をします。教室で上半身裸になって校庭へ移動してください。」

教室が静かになった。女子たちの表情が一気に曇る。葵は唇をきつく結び、美保は眉を寄せて小さく舌打ちした。玲奈は腕を組んでじっと下を見つめる。

先生が号令をかける。

「では、服を脱いでいきましょう。上半身裸になってね」

男子たちはさっさとシャツを脱いで上半身裸になる。

葵はゆっくりと立ち上がり、ブラウスのボタンに指をかけた。一番上のボタンを外すと、胸の谷間が少し覗く。二番目、三番目……。クラス中の男子の視

線が自分に集中しているのが、肌で感じられた。

「はあ……」と小さく息を吐きながら、最後のボタンも外した。葵はブラウスを肩から滑り落とし、次にブラジャーのホックに手をかけた。外した瞬間、彼女の豊かで柔らかいおっぱいがぷるんと露わになった。